



デンマークの福祉施設を訪ねて

■プライエムとリハビリセンターおよびケア付住宅

前回の県立補助器具センターの紹介につづき、今回はプライエム（日本での特別養護老人ホーム）とリハビリセンターおよびケア付住宅のご紹介をします。

デンマーク第3の都市、オーデンセで私たちは、プライエム「マリエルンド」及び、ケア付住宅とリハビリテーションセンターの2つの機能をもつ施設、「サンクストハンス・パーゲン」を訪れた。「マリエルンド」は、1976年民間によって設立。その後、市に寄付された重度介護老人のための施設である。（現在デンマークでは、国の政策で、1988年より新たな施設は一切つくらないことになった。）3人の住民の部屋を見せてもらう、ベッドと床頭台以外は全て、自分のものを自分の好きなようにレイアウトしているためか、各部屋で受ける印象は全く違うものであった。どの部屋にも言える事だが、使い込んだ家具や座りごちのよさそうな椅子、写真や絵画、草木や花々、その他思い出の品々に囲まれて、その人が、そのスペースの中でいちばん住みやすいと思える雰囲気をつくりだしている。日本の特別養護老人ホーム（以下特養とよぶ）と大きく違うと感じた点は、職員の時間的な余裕である。入居者53人に対して職員はパートを含めて100人というから、1人1人に合った「余裕のある」介護ができるのもうなずける。痴呆性の老人にゆっくり付き添って、介護したり話し相手になったりしている職員があちこちで見られた。日本の特養に

は、入所者1人ひとりが好きなことをして生活を楽しむ空間も、職員が気持ちの余裕をもって介護にあたる時間的保証も与えられていない。デンマークと日本の福祉の水準の違いを改めて感じさせられた。施設長の話しの中で、最も興味深かったことは、職員や住民の発案で新しいやり方を取り入れている。「新しいことに挑戦するのが好き」と言う。その考えは運営方針に大きく影響を与えているが、これも「現場に裁量権を委ねる」という前提あつてのことと思われる。この方法がもっと日本で取り入れられたらと感じずにはいられなかった。次に、「サンクストハンス・パーゲン」ではアパートと呼ばれているケア付住宅の一室を見学、2DKのマンション風でベッドやトイレなどが住人の使いやすいようになっている。又この住民たちは、町中で住む老人と条件的には同じで、ケアはプライエムの住民と同じ24時間体制で受けている。つまりプライエムの住民は、年金が国から直接施設に支払われて、小遣いだけ渡されるのに対して、ケア付住宅の方は、年金を全額貰い、そこから住宅費等必要なものを支払っていくという形態をとっている。今回の施設を見学し、感じることは、デンマークでは、生活を豊かにし、楽しむことが当たり前のこととされていて、そのための時間的余裕と空間が可能な限り保証されている点であった。



●マリエルンドの玄関



●ケア付住宅



●サロン

(続編)



●サンルーム



●OT室



●PT室のイス



●ADL室



●台所



●厨房室



●美容室

●写真・原稿は、自治労大阪府職員労働組合・福祉支部鈴木望、平井道恭、長門多恵子、香西豊の方々にご協力をいただきました。